

イノベーション創出の拠点

KU-CIC

イノベーション創生センター

Kansai University
Center for Innovation &
Creativity



関西大学
イノベーション創生センター
竣工5周年にあたって

NEWSLETTER

CONTENTS

CIC Anniversary 5th.

関西大学イノベーション創生センター 竣工5周年にあたって

イノベーション創生センター
センター長 石川正司

Open Lab

研究室のイマ

社会学部社会学科 与謝野有紀教授
社会学部社会学科 合同会社SOLARIS代表
林直保子教授

News & Topics

イノバイターストーク
“SFInX2021”その後
関大の“起業家の卵発掘!”ピッチ
Seven Story's ~普通の大人も「楽しそう!!」
企業見学会シリーズ
入居ベンチャーの活動報告
消防訓練

今後のスケジュール
「Mission Lounge」活動報告
編集後記

未来への 決意



KANSAI
UNIVERSITY



関西大学
イノベーション創生センター
竣工5周年にあたって

「学の実化」を具現化した オープンイノベーションの場。 5年後、10年後の 姿を見据えて。



関西大学イノベーション創生センター
センター長 石川 正司
Ishikawa Masashi

1987年 大阪大学大学院工学研究科 博士前期課程修了
1991年 企業研究所を経て大阪大学工学博士取得
1997年 山口大学工学部助教授
2000年 ミネソタ大学客員助教授
2003年 関西大学着任
2005年 関西大学工学部(現・化学生命工学部)教授
2014年 大学発ベンチャー 株式会社アイ・エレクトロライトを設立
CEO就任～現在に至る
関西大学先端科学技術推進機構長、
関西大学イノベーション創生センター長などを歴任～現在に至る

文・理の垣根を越え、学理と實際を調和させる 本格的なイノベーション拠点として誕生

関西大学は、学是に「学の実化(がくのじつげ)」を掲げています。時を遡ることちょうど100年前、1922年に本学が大学に昇格した際、当時の総理事・山岡順太郎が提唱した考え方です。「学理と實際の調和」、すなわち学びを社会に実装・還元すること表しています。

「関西大学イノベーション創生センター(Center for Innovation & Creativity:CIC)」は、2016年9月、本格的なイノベーションの創出拠点となることを目的に竣工し、昨年9月に5周年を迎えました。もちろん竣工当時にも、学内には高度な研究を行う拠点はありましたが、CICはさらに「事業化」や「起業」を視野に入れた研究に特化し、「学理と實際」を調和させ社会に羽ばたかせる「場」、ひいては「学の実化」を実現する場となることを目指す。そうした思いがCIC設立の原点です。

そのCIC最大の特徴は、自然科学系のみならず、人文科学系・社会科学系までも含め、教員や学生が企業・研究機関の方々と対話・交流できる機能を有していることです。3つの理工系学部をはじめ、文系学部もあわせ関西大学全13学部中10学部が集まる千里山キャンパスの中央に専用の建物を構え、24時間利用可能な研究エリア、T-Space(対話スペース)、思索に耽りアイデアを練ることができるカフェエリアなどをコンパクトに集約。意図して作られたこの「知的カオスに満ちた場」では自由闊達な活動が展開され、イノベーションの芽がいくつも息吹き、実を結び始めています。

アントレプレナーシップを醸成し、 新ビジネス・ビッグビジネスを生む基地となる

もう一つの特徴として、CICは「アントレプレナーシップ」の醸成を目的とした施設であることです。有名大学を卒業し、大企業に入社して、あとは「寄らば大樹の陰」、今はそんなキャリア設計が通用する時代ではありません。たとえば理系なら汎用性の高い技術の習得やオリジナリティあふれる研究活動を核とし、文系ならビジネススキームを構築できるマーケティングセンスや発想・企画力を磨くことを核として、そのうえで文理の垣根を越えた学びにも挑んでみる。学生時代にこそ、こうした学び方を身につけていく。その結果、活躍の場は大企業やベンチャー企業となるかもしれませんし、起業に向かうかもしれません。いずれにしても「自ら仕事を創造し、推進できる力」を養うことが大切です。

CICでは、そうした仕掛けをたくさん作ってきました。学生たちが理工系の技術シーズを基にビジネスアイデアを競うコンテスト「Sciences Fusion in X(略称SFinX)」をはじめ、若手起業家が生の現場を語る「イノベーターズトーク」、先進的な取組みを展開する企業を訪問する「企業見学会」の実施、起業に関心のある学生が集うCIC公認学生コミュニティ「Mission Lounge」などです。起業を志す学生の中には、クラブやサークルに所属せず一人で考えている人がいます。そんな彼らにとって、CICが夢に向かって活動できる場であってほしい。現時点ではアントレプレナーシップの醸成は課外活動ですが、今後はカリキュラム化する、そんな発想があってもいいと思います。

同様に学生だけでなく教員も、国の競争的資金などにも積極的に応募し、その外部資金をもとに、シーズの実用化・事業化の速度を上げていくことが大切です。そのためにCICでは、

研究開発シーズを理解した産学官連携コーディネーターやリサーチ・コーディネーターが、企業とのマッチング、進捗管理、知的財産戦略など深く広い知識とマルチな力でサポートしています。

「新ビジネス・ビッグビジネスを生む基地となる」。それが、いま私が思い描く5年後・10年後のCICの姿です。とはいえ、大学の知を社会実装することは、先が読めず、一朝一夕にはいかないことも事実です。

だからこそ、これまで以上に心がけていくべきは、「オープンイノベーション」です。もっと多くの企業のみなさまに知っていただくことも大切です。そして企業の方はもちろん、教員、学生、スタッフが一緒になって、気軽にオープンに、刺激し合い相談し合い、知恵と技をシェアしながら競いながら、新たなビジネスを生み出していける拠点にしたいと考えています。

GAFAsを生んだシリコンバレーのように、やがては、このCICがアントレプレナーシップに満ちた「アントレヒルズ」となるといいですね。

やっと種まきの時期が終わりました。いよいよこれからが勝負です。

JST-STARTプログラムの 共同機関として採択!

大学発新産業創出プログラム (大学・エコシステム推進型スタートアップ・エコシステム形成支援)

「スタートアップ・エコシステム拠点都市※」において、中核となる大学などから生まれる技術シーズの実用化や、アントレプレナーシップをもった人材育成を支援するプログラム。関西大学は、その共同機関として採択されました。

【共同機関責任者】 副学長／研究推進部長／ 社会連携部長／ 環境都市工学部 教授 山本 秀樹	【プログラム共同代表者】 化学生命工学部教授／ イノベーション創生センター長 石川 正司
--	---

※優れた人材、研究開発力などを生かし、世界に伍する日本型のスタートアップ・エコシステム拠点を形成・発展させることを目的として、2020年に内閣府が4つのグローバル拠点都市と4つの推進拠点都市を選定

JST-SCORE事業(GAPプログラム) [KSAC Demo Day 2022]開催(2月3・4日)

関西大学から採択された5つのプロジェクトが、 研究の進捗と成果、事業化に向けた今後の計画を、 バーチャル会場でプレゼン! YouTubeでライブ配信!

関西大学から5件採択された2021年度の「JST-SCORE事業(GAPプログラム)」。2月3・4日には、その研究の成果、事業化に向けた今後の計画などを報告する「KSAC Demo Day 2022」が開催されました。

この「KSAC Demo Day 2022」は、オンラインを活用したバーチャル会場で行われました。登壇した研究者は、自らまとめたパワーポイントなどを投影しながら10分間プレゼンテーション。その後、質疑に答える流れで進められ、その様子はYouTubeでライブ配信されました。

いずれの研究テーマも、SDGsやゼロカーボンなど社会課題解決を取り込んだ新ビジネス創出の可能性を秘めた技術だけに、寄せられる質疑も事業化に向けたリアリティを問うものが多く、研究に対する期待の高さが伺われる報告会となりました。

イノベーション創生センター活動実績

イノベーション創生センターにオフィスを構える 関西大学発ベンチャー企業 (6社、2022年3月現在)



2014年4月設立
株式会社
アイ・エレクトロライト



2016年11月設立
株式会社KUREI



2017年2月設立
株式会社Ku:P
(キューブ)



2018年4月設立
株式会社ケーラボ



2018年7月設立
合同会社SOLARIS



2019年2月設立
株式会社
Phindex Technologies

イノベーション創生センター主催 交流会 (2017~2021)

- ◆入居企業・研究者交流会(5回開催)
- ◆関西大学OB起業家交流会(3回開催)

学生向けイベント (2017~2021)

- ◆イノベーターズトーク: 若手起業家によるセミナー
Vol.1~Vol.23..... 延べ参加者: 688名
- ◆ビジネスアイデアコンテストSFinX(Sciences Fusion in X):
本学理工系の技術シーズを基にビジネスアイデアを競う
(2018年~2021年: 4回開催) 延べ参加者: 229名(49チーム)
- ◆企業見学会: 先進的な取組みを展開する企業を訪問
Vol.1~Vol.8 延べ参加者: 145名
- ◆その他イベント(30回開催) 延べ参加者: 514名

イノベーション創生センター学生コミュニティ 「Mission Lounge」



2018年6月、起業に関心のある学生が集まり、学生同士の情報交換の場として当センター公認学生コミュニティを発足。メンバー間の交流、起業家や金融機関の方を講師に招へいしセミナーの企画・運営、プログラミング勉強会、ベンチャー企業訪問の他、当センターイベントのスタッフとして活動中。
2022年3月現在登録学生数: 57名(卒業生を含む累計登録学生数: 134名)

その他 起業支援

関西大学起業資金支援制度
INPIT大阪府知財総合支援窓口(臨時窓口 in 関西大学)

Open Lab

→ 研究室のイマ

「信頼」を研究し社会実装へ。地域の活性化に貢献!



信頼を地域創生に活かす仕組みづくりや、まちの一体感を生む商品づくりを実践

社会学部で社会心理学を指導する林直保子教授が代表を務め、CIC内に拠点を置く合同会社SOLARISは、「信頼をビジネスに変える」ことを生業としている。それだけ聞けばありきたりな企業キャッチフレーズのように聞こえるかもしれないが、ここでいう「信頼」とははっきりとした「学術研究」であり、SOLARISはその研究成果を社会実装するための実証実験などを行う企業体である。

林教授は、その成り立ちをこう振り返る。林教授：SOLARISの前身は、文部科学省の「私立大学戦略的研究拠点形成支援事業」として、2010年に設立された「関西大学・社会的信頼システム創生センター（Center for Social Trust and Empowerment

Process:STEP)」です。このSTEPは、文部科学省から5年間の助成を受けながら、「信頼」とは何か?を社会心理学や行動科学の切り口から探求し、それが私たちの経済活動やコミュニティ形成などにどのような影響を与えるのか?さらにはそこから生まれる「信頼」をビジネスや地域活性に応用するにはどんな仕組みや社会システムが必要か?を理論と実践の両者から研究するための組織でした。すぐさま私たちは、その実証実験の場に関西大学ゆかりの地でもある日本一長い商店街・天神橋筋商店街を選び、地域連携拠点「関西大学・リサーチアトリエ」を構えて活動を始めたのですが…。

林教授の大学の先輩であり、かつ当時の

STEPセンター長を務めた与謝野有紀教授が言葉をつなぐ。与謝野教授：STEPは、文系学部としては異例ともいえる予算規模と専用施設を持った組織でした。が、何しろ5年間という有期組織です。助成期間が終わってしまえば、その間に積み上げた経験・知見がそれ以上成長することはありません。期限が迫るにつれ、助成金の比重が大きい学問研究組織では、社会問題の解決を継続的に実践することは難しいというジレンマが生まれてきてました。それが合同会社を作ろうとした理由です。そしてSTEPの活動の最前線にいた林教授がSOLARIS代表となった、これがこの成り立ちです。

「信頼」を力に! あの手この手

●大阪締め動画コンテスト
「打ちまーしょ、パンパン……」。よく知られる三三七拍子や一本締めとは異なる大阪独特の「大阪締め」の普及を期した仕掛け。誕生日や記念日、大切な人との祝いの瞬間を動画に撮って応募
<https://osakajime.com/>



●祝うてサンド
「祝うてエール」にあうおつまみ。大阪の食文化の代表格・串カツに着想を得て、「大阪締め」の音頭をイメージしたネーミングで商品化

●天満天神繁盛亭15周年特別記念手ぬぐい
天神橋筋界隈の誇り「天満天神繁盛亭」15周年に「祝うてエール」を108本寄付。上方落語協会からお礼に送られた手ぬぐい

●絶版書籍等のデジタル化再刊行
心に残る一冊や記念誌を再刊行するビジネススキームを構築。DTP対応するために画像化したファイルからテキストを抽出し、編集する



大阪天満宮(天満天神の水)

CICにいたからこそ実現! 「天満天神の水」復活と「祝うてエール」

CICは、関西大学理工系学部の持つ技術シーズと、それを求める企業をマッチングさせる場だけではない。社会学部を基盤としたSOLARISがCICに拠点を置くメリットとは何なのか?林教授に尋ねてみた。林教授：もともと社会心理学は、産業、教育などさまざまな応用分野を持っており、学術研究を深めると同時に、研究成果を実社会で試してみることが強く求められる学問です。むしろ、フィールドワークで得た経験・知見を研究にフィードバックするほどに、研究も広がりや興行が生まれます。その意味では、ほかの学問分野と違いはありません。とはいえ、実証実験の企画・実施や、新たな商品・サービスをプロデュースすることを生業とするSOLARISは、CICの中では異質なラボかもしれません。高価な研究設備や機器もなければ、誰かが実験をしているワケでもない。事務所のような殺風景なラボですから(笑)。ですが、実はこのCICこそ、私たちには理想的な環境なんです。ここは、文系学部では手に負えない最先端技術がそろったショールームのようなもの。ここに拠点を構えているだけで、関西大学が持つさまざまな先端技術をいつでもすぐにキャッチアップでき、目的に応じて選んで活用することができます。その代表例が、私たちが取り組んでいる事業「信頼にもとづく天満天神地域の活性化」の施策である、「天満天神の水」とそれを使ったクラフトビール「祝うてエール」の商品化です。これはCICにいたからこそ実現できたといっても過言ではありません。

一見すると、SOLARISの事業領域に「一貫

性」は感じられない。そこについて、与謝野教授はこう解き明かしてくれた。与謝野教授：私たちのアウトプットは、商品や商標になったり、調査や仕掛けの提案になったりと、たしかにバラバラです。ですが、それは矛盾するものではありません。私たちは信頼を科学する研究者であり、あらゆる手段を用いながら信頼に基づくよりよい社会

づくりを目指すコーディネーター。事業のコアは「信頼」、そこは一貫しています。おらがまち、文化、生活習慣、商品。それらを通じて心がつになる、一つにする。そこに共同体意識が芽生え、活気が生まれる。そうして成果が出れば、研究も進む。研究と実践、どちらも大切でとても楽しい。いまの私たちの目標は、ズバリ「大阪を元気にする!」ことなんですよ。

天満天神の水



STEPが始まった2010年、当時学長を務めていた楠見晴重教授(環境都市工学部 都市システム工学科)が持つ岩盤工学の知見を活かして、かつては御神水が湧いた大阪天満宮・神水舎地下70mから地下水の汲み上げに成功。その後、山本秀樹教授(環境都市工学部 エネルギー・環境工学科)の水の膜ろ過技術を活用して、安全安心な超軟水の飲料水として見事に復活。この水でとった昆布出汁は、水道水よりも多くのうまみ成分を含んでいる。これは老川典夫教授(化学生命工学部 生命・生物工学科)が行った化学分析で示された(出汁の飲み比べ実験結果は、論文「ポジティブネットワーク形成の主軸となる地域産品の特性、機能、条件:「天満天神の水」を対象とした計量分析的整理」に掲載)。

祝うてエール



天満天神の水で作るクラフトビール。クラフトビールの名前「祝うてエール」に加え、大阪編めに由来する「祝うてサンド」も商標登録されている。そのめでたい語感に惹かれ、後者を商品名に使う洋菓子メーカーもある。天神橋界隈のご当地日本酒づくりを目指して始まった地下水掘削だが、汲み上げ成功当時の水は鉄分が多く、日本酒醸造には不向きなことが判明。ビール用へと変更されたが、ろ過成功によって日本酒にも使える超軟水に。それでもあえて「仲間感」を抱きやすいビールづくりで勝負。天満天神の水は、ビールに使うと泡持ちの時間が長くなることも立証されている。

関西大学社会学部 社会学科
社会システムデザイン専攻

ありのり
与謝野 有紀 教授(文学修士)
Arinori Yosano

1985年3月 北海道大学文学部行動科学科 卒業
1988年3月 北海道大学大学院文学研究科 修士課程修了
1990年3月 北海道大学大学院文学研究科 博士課程中退
2001年4月 関西大学社会学部教授
2010年5月 文部科学省「私立大学戦略的研究拠点形成支援事業」の助成を受けて設立された関西大学・社会的信頼システム創生センター 長

●1998年 第2回・数理社会科学論文賞



合同会社 SOLARIS(ソラリス) 代表
関西大学社会学部 社会学科 心理学専攻

なほこ
林 直保子 教授 博士(行動科学)
Nahoko Hayashi

1991年3月 北海道大学文学部行動科学科 卒業
1996年3月 北海道大学大学院文学研究科行動科学 博士課程修了
2009年4月 関西大学社会学部教授
2010年5月 文部科学省「私立大学戦略的研究拠点形成支援事業」の助成を受けて設立された関西大学・社会的信頼システム創生センター 副センター長
2018年7月 関西大学・社会的信頼システム創生センターの研究成果を実装する企業として、SOLARISを起業

●2006年 日本グループ・ダイナミックス学会優秀論文賞

News & Topics

Innovator's Talk イノバイターズ トーク

アントレプレナー(起業家)マインドの醸成をめざし、
ビジネスの第一線で活躍中の
若手起業家イノバイターを招いた
学生向けトークイベント



2021年10月27日
イノバイターズトーク Vol.22



社会課題を解決する製品をデザインするベンチャー企業である株式会社DG TAKANOより、CEO 高野雅彰氏を講師に迎え、「学生の中から何を考え、どんなチャレンジをし、どんな失敗をし、どんな経験をして、現在に至ったか」をテーマに行いました。

講演で高野氏は、自身の起業から現在に至るまでの歩みの中で直面した苦労を赤裸々に語りつつ、「分析力」「想像力」「行動力」を鍛えることの大切さについて話しました。また、イノベーションとは、これら3つと「常識外」を掛け合わせたときに起こるものとし、「効率的に夢を叶えることは、イノベーションを起こすことでしか達成し得ない」と熱く語りました。淡淡とした口調の中に、「叶えたい夢」をメンバー全員で叶えるという強い意志と、それを実践している人の説得力がありました。

質疑応答の最後には、「起業は目的ではなく手段にすぎない。まずは自分にとっての幸せとは何かを真剣に考えてみて。」と将来起業を考える学生に熱いエールを送り、終始食い入るように聴いていた学生たちにとって、強い刺激を受ける時間となりました。

2021年12月2日
イノバイターズトーク Vol.23

Vol.23

業界では初となる東証マザーズ上場を果たした株式会社マクアケより、共同創業者/取締役 坊垣佳奈氏を講師に迎え、「新時代のものづくり・サービスの広め方～アタラシイものや体験の応援サービス『Makuake』を通して～」をテーマに行いました。



坊垣氏は講演の中で、作り手の熱意に心を打たれて湧きだす「応援したい」という気持ちを繋げていくその先に、「生まれるべきものが生まれ 広がるべきものが広がり 残るべきものが残る世界の実現」を目指していると、クラウドファンディングではなく「応援購入サービス」と定義し、そう呼ぶことの意図を丁寧に話しました。

参加した学生たちは、「私以外の誰かではなく、私がやることに意味がある」と使命感をもって取り組むこと、そしてその熱意はたとえ拙くとも熱が宿り、共感を呼ぶという事実が強く印象に残ったようです。

他にも、キャリアの考え方や、オリジナリティの重要性、経験の積み方などの話もあり、学生にとって今後の活動への励みになりました。



ビジネスアイデア
コンテスト
SFinX2021
その後

ビジネスアイデアコンテスト「SFinX2021」に出場した学生が、
アイデアをブラッシュアップし、学外のビジネスプランコンテストに挑戦しました。

第19回「学生ビジネスプランコンテスト」(主催:学生サポートセンター)で入賞

優秀賞



商学部 荒木ゼミ 西村優里さん・清水彩花さん
菱沼ゆいさん・山田康太さん

「Comfortable Sensing Cluster (CSC)」

写真左は矢田勝俊商学部長

努力賞

商学部 荒木ゼミ
霜上茉奈美さん・多田周平さん・
田中地佳奈さん・中野彩花さん・林杏香さん
「ZOOD～新技術ですっとい動物園を～」



一般財団法人学生サポートセンター令和3年度「学生ビジネスプランコンテスト」▶ <http://www.gakusei-sc.or.jp/>

関大の
起業家の卵発掘!
「ピッチ」
の開催



10月20日にイノベーション創生センターで、「関大の“起業家の卵発掘!”ピッチ」を開催しました。

今回、初めての開催となる本ピッチコンテストは、起業に関心がある学生が集まる当センター公認学生コミュニティ「Mission Lounge」に所属する学生を対象に募集。すでに事業を始めている学生や、これから事業をスタートする学生など、本気で起業を目指す4組が出場し、厳正な審査の結果、最優秀賞1組が選ばれました。プレゼンでは、それぞれのビジネスプランや起業に対する想いを次々に発表し、質疑応答も途切れることなく、大いに盛り上がりました。

最優秀賞を受賞した商学部4年次生の飯田翔悟さんは、2月22日に開催された「KANSAI STUDENTS PITCH Grand Prix」に、本学代表として出場しました。



商学部4年次生 飯田翔悟さん

イノベーション創生センター × カルチャ・コンビニエンス・クラブ株式会社

共催イベント 『Seven Story's ～普通の大人も『楽しそう!!』～』を実施

11月22日、美容師、ミュージシャン、公務員、絵本作家など、様々な業種で働く7人の夢あるおじさん達が登壇。自身のライフチャートを用いて、どこで自分・人生・仕事を「イノベーション」したのか、そのきっかけや原動力について熱く語りました。

異色のトークイベントに講演後も学生からの質問が途絶えることなく、挫折や苦労を経験しなから、夢に向かってひたむきに挑戦していく登壇者から前向きに生きるヒントとなりました。



企業見学会
シリーズ

2021年11月24日 株式会社島津製作所 本社訪問

イントレプレナー(社内起業家)
マインドの醸成をめざし、
先進的な取り組みを行う企業を訪問する
学生向け見学会

第8回となる今回の見学会は、関西大学SDGs WEEKsとのコラボ企画として、本学のSDGsパートナー制度の登録企業の株式会社島津製作所 本社を訪問。当日は、新型コロナウイルス感染予防対策を十分に配慮のうえ実施し、文系・理系の学生17名が参加しました。本見学会では、社員の方による会社概要や取り組みについての講演のほか、ヘルスケアR&Dセンターの「KYOLABS」や、分析計測機器を中心とするショールーム「Science Plaza」を見学しました。

講演では、「科学技術で社会に貢献する」を社是とし、「見えないものを見えるようにする」分析計測技術や医用画像診断技術による社会課題解決に向けた取り組みや、事業を通じたSDGsへの取り組みについてお話しいただくとともに、新型コロナウイルス対策や、ニューノーマルに向けた変化など新たな課題の中から、「新型コロナウイルス検出試薬キット」や「全自動PCR検査装置」等のイノベーションが生まれた、との紹介がありました。

講演後の質疑応答では、「社会課題を見つける時のヒントは?」など、次々と学生が質問し、関心の高さがうかがえました。



入居ベンチャーの活動報告

9月27日、当センター入居ベンチャーである株式会社Phindex Technologiesが国立循環器病研究センター・大阪商工会議所主催「第11回イノベーションカフェ」に登壇しました。



株式会社Phindex Technologiesが、2021年度 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)「SBR推進プログラム」に採択されました。

株式会社アイ・エレクトロライトが、関西アカデミア×KSII×SMBC「第1回 Challenge万博「いのち輝く未来社会」へ」スペシャル動画特設サイト(開設期間:2022年1月4日～2月28日)で紹介されました。また、1月31日に開催された併設企画セミナーにも登壇しました。

消防訓練

2021年11月25日にイノベーション創生センターの消防訓練を実施しました。

避難訓練のほか、消火器や消火栓の使い方、避難用はしごによる避難体験に加え、今年は火災時の高圧ガスや化学物質の取扱説明の講習を実施し、火災発生時の適切な対応について正しい知識を身に付ける機会となりました。



Event Schedule

2022年度春学期 ▶ イベントスケジュール

2022 Spring



本学理工系の技術シーズを基にビジネスアイデアを競う

ビジネスアイデアコンテスト

“SFInX2022”を開催

Sciences Fusion in X

Social Science (社会科学), Natural Science (自然科学) など
 様々なScience (科学)を融合して新しいビジネスXを提案しよう!
 ~SFInXのPuzzleに君はSolutionを提供できるか?~

技術説明会 2022年4月21日(木) 16:30~18:30

中間発表会 2022年6月23日(木) 16:30~19:30(予定)

最終審査会 2022年8月2日(火) 13:00~17:00(予定)

2022年5月18日(水) 13:00~14:30

イノベーターズトーク Vol.24



カルチャー・
 コンビニエンス・
 クラブ株式会社
北田 博充氏

2022年6月29日(水) 13:00~14:30

イノベーターズトーク Vol.25



THE SEED
 ザシードキャピタル株式会社
 代表取締役社長
廣澤 太紀氏

2022年6月15日(水) 14:00~15:30

企業見学会 Vol.9 住友化学株式会社

*詳細は、決まりしだいSNS・チラシ等でお知らせいたします。

学生コミュニティ 「Mission Lounge」活動報告



10月6日に、東京証券取引所から講師を招き、
 金融市場セミナー「知らないことやばい!?『金融・証券市場』をプロに聞いてみた。」をオンラインと対面のハイブリッドにて実施しました。大学生に少しでも金融や証券に関する知識を増やしてもらえるよう初心者に向けた基礎的な内容となりました。

今回、講師のオファーや参加者へのメールなど、企画から実施まで一貫してMission Loungeの学生だけで準備を進め、当日は約30名の学生が参加し、大いに盛り上がりました。

<p>社外人を 起業家も ビジネスも 知らないことやばい!? 「金融・証券市場」 をプロに聞いてみた。</p> <p>10月6日 13:00-14:30</p>	<p>場所 オンライン 対面センター2階 〒566-0205-2005 +Zoom 参加費はZoom でのオンライン 参加となります。</p>	<p>対象者 ・学生 ・教員 ・教員 ・教員</p>
<p>主催 関西大学イノベーション創生センター オペレーション 事務局</p>	<p>講師 東京証券取引所 関西大学イノベーション創生センター 事務局</p>	<p>講師 鈴木 深氏 東証って?</p>

編集後記

KUCICは、2021年9月に竣工5周年を迎え、さらなる5年後、10年後に向けて動き始めました。記念号となる今号では、石川センター長より、文理融合のイノベーション拠点を目指し活動した5年間と今後の展望について語っていただいています。また、Open Labでは、与謝野教授、林教授より、KUCICという拠点があったからこそ文系、理系の知見が融合し、「天満天神の水」が復活、クラフトビール「祝うてエール」が生まれたと紹介がありました。この3月には、当センター竣工後に入学生、低学年時より当センター主催イベントに参加、学生コミュニティで活動した学生たちが卒業しました。彼らがここでの経験を通して成長したように、私たちも新たな価値を創造できる拠点づくりを目指し、進化しなければなりません。(研究支援・社会連携グループ 西川香)

関西大学 イノベーション創生センター

Kansai University Center for Innovation & Creativity
 〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL06-6368-1250 FAX06-6368-1237
 E-mail: kucic@ml.kandai.jp https://www.kansai-u.ac.jp/renkei/innovation/index.html
 発行日/2022年3月31日 発行/関西大学 イノベーション創生センター

関西大学 イノベーション創生センターは、学問分野の枠組みを越え、教員・学生・企業技術者との対話や交流を実現し、本格的なイノベーション創出の拠点を目指します。

関西大学イノベーション創生センターの『今』をご紹介します!

